

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名 (回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名 (回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(理学療法士、言語聴覚士など)を配置し、言語、粗大運動(手指運動)などの身体機能、遊びを通して情緒面など社会性・コミュニケーション等の、より細かい視点で発達に対して専門的なアプローチができます。	理学療法士や言語聴覚士が中心となり、個々の発達課題に応じた個別プログラムを立案・実施している。 遊びの中で自然に言語・運動・情緒の発達を促せるよう、環境設定や教材選定を意識的に工夫している。 保護者に対して、家庭でできる簡単な運動や発語促進の関わり方を伝えるなど、家庭支援にも力を入れている。	外部研修などで自己研鑽に努め、専門職・支援員ともにスキルアップを図る。 コミュニケーションや社会性の発達など、他専門職とも連携を強化し、より幅広い視点での支援を目指す。
2	小集団の療育を通して、保護者様の悩みに寄り添い安心して相談できる環境づくりに努めています。また、より細かい利用者のニーズに対応できるよう努めています。	保護者との日々のコミュニケーションを可能な限り大切にし、送迎時や連絡帳で必要に応じて情報を共有している。 必要に応じて、面談日以外にも個別相談の時間や電話対応の機会を設けている。	希望に応じて保護者向けの勉強会や交流会を開催を検討、家庭での関わり方や支援方法を共に学べる機会をつくる。 地域関係機関との連携強化を図り、必要に応じてスムーズな支援の継続や紹介ができる体制を整える。
3	個別支援計画に沿って、SOAPでの記録方法を実施しています。目標を明確にすることで、それに向けたプログラムを実施し「支援の成果の見える化」を図り、現状の発達に合った療育を実施しています。	支援計画に沿った日々の支援内容を職員間で共有し、振り返りを行う仕組みを設けています。 SOAP形式による記録の統一を進め、支援内容の一貫性と透明性を確保しています。	家庭や関係機関との情報共有体制を強化し、支援の一貫性を高める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援を重視しているため、欠席児が出た際などに他児への活動参加を積極的に促す働きかけが十分に行えない。	利用児童の休みを見越して受け入れ枠を多めに設けたいが、休まなかった場合の過密対応を懸念し、多めの受け入れ案内が難しい状況にある。	柔軟に対応できる活動設計や教材配置を検討し、個別支援と他児への働きかけのバランスを調整する。
2	小集団がゆえに、社会性やコミュニケーションの部分で支援が必要な児童に十分な支援が行えない。	小集団の人数構成のため、環境設定が個別対応優先となり、自然な集団での交流や関わりを促す仕組みが限定的になっている。	可能な限り、活動の中で、社会性やコミュニケーションの機会を意図的に組み込む(例:ペア活動や小グループでの協力ゲームなど)
3	保護者に対するフィードバックは支援に置いて重要な要素であるが、十分に行えないことがあり、担当者が伝えたい内容が保護者に正しく伝わらないケースがある。	療育時間が限られており、個別療育に重点が置かれていることで、保護者とじっくり関わる時間の確保が難しい。	フィードバックの方法や内容について、共通の基準を持てるよう整備していく。